

「^{ぶっしん}仏心とは^{だいじひ}大慈悲なり」

おとべ 孝順
こうじゆん

東日本大震災の年に、その年の世相を表す漢字に、「絆」が選ばれました。あの未曾有の天災を経験し、人と人との絆がいかに大切なものかを再認識させられました。私たちが願うのは、日々平穏な生活を営むことではないでしょうか。それには、何が最も大切なのかを、この震災は私たちに教えてくれたと思います。お釈迦様は、絆を深めるには、^{なご}和やかな笑顔で、優しい言葉で人と接することが大切であり、また、喜びや悲しみ・苦しみを分かち合う心遣いが大切だと教えています。慈悲とは、多くの人と親しく交わり、幸せや楽しみを分かち合いたいと思うことであり、悲しみや苦しみの^{かちゆう}渦中にある人に心を寄せ救ってあげたいと願う心を意味しています。今の私たちは、この心を忘れていないのでしょうか。その結果が、孤独死・孤立死であり、いじめと、それが原因とみられる自殺の問題ではないでしょうか。地獄・極楽も遠いところにあるのではなく、日々の生活の中で、多くの信頼できる人がいるか否かによるのです。

『^{ぶっせつかん}仏説^{わりようじゆきよう}観無量寿経』に「^{ぶっしん}仏心とは^{だいじひ}大慈悲なり」という言葉がありますが、これは子が親を殺そうとした^{おうしやじよう}王舎城の悲劇といわれる大事件に遭遇した^{いだいけ}韋提希に対して教え諭されたものです。

今はあまり聞くことがなくなった「おかげさまで」という言葉は、人の援助や心遣いに対する感謝の気持ちを表した美しい日本語だと思います。東北の大震災を機縁として、「おかげさま」という日本語に表された、絆を大切にした日本人の心を思い出すことが必要なのではないのでしょうか。